

第56回 県政に関する世論調査の結果について

千葉県総合企画部報道広報課
電話：043-223-2469

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は平成30年度1回目の調査で県内在住の満18歳以上の男女3,000名を対象に実施しました。

具体的な内容としては、環境と生活、健康、福祉、観光、千葉県の農林水産物、防災に関する取り組み、地方分権、広報・広聴活動について県民の意識調査及び「県政への要望」についての調査を行いました。

1 調査の設計

(1) 調査対象 千葉県在住の満18歳以上の男女個人

(2) 標本数 3,000人

(3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し(層化)各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

(4) 調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用
(郵送配付 - 郵送・オンライン回収)

(5) 調査時期 平成30年9月21日～平成30年10月12日

2 回収結果

有効回収数(率) 1,334(44.5%)

3 調査の項目

(1) 県民意識調査

環境と生活について

健康について

福祉について

観光について

千葉県の農林水産物について

防災に関する取り組みについて

地方分権について

広報・広聴活動について

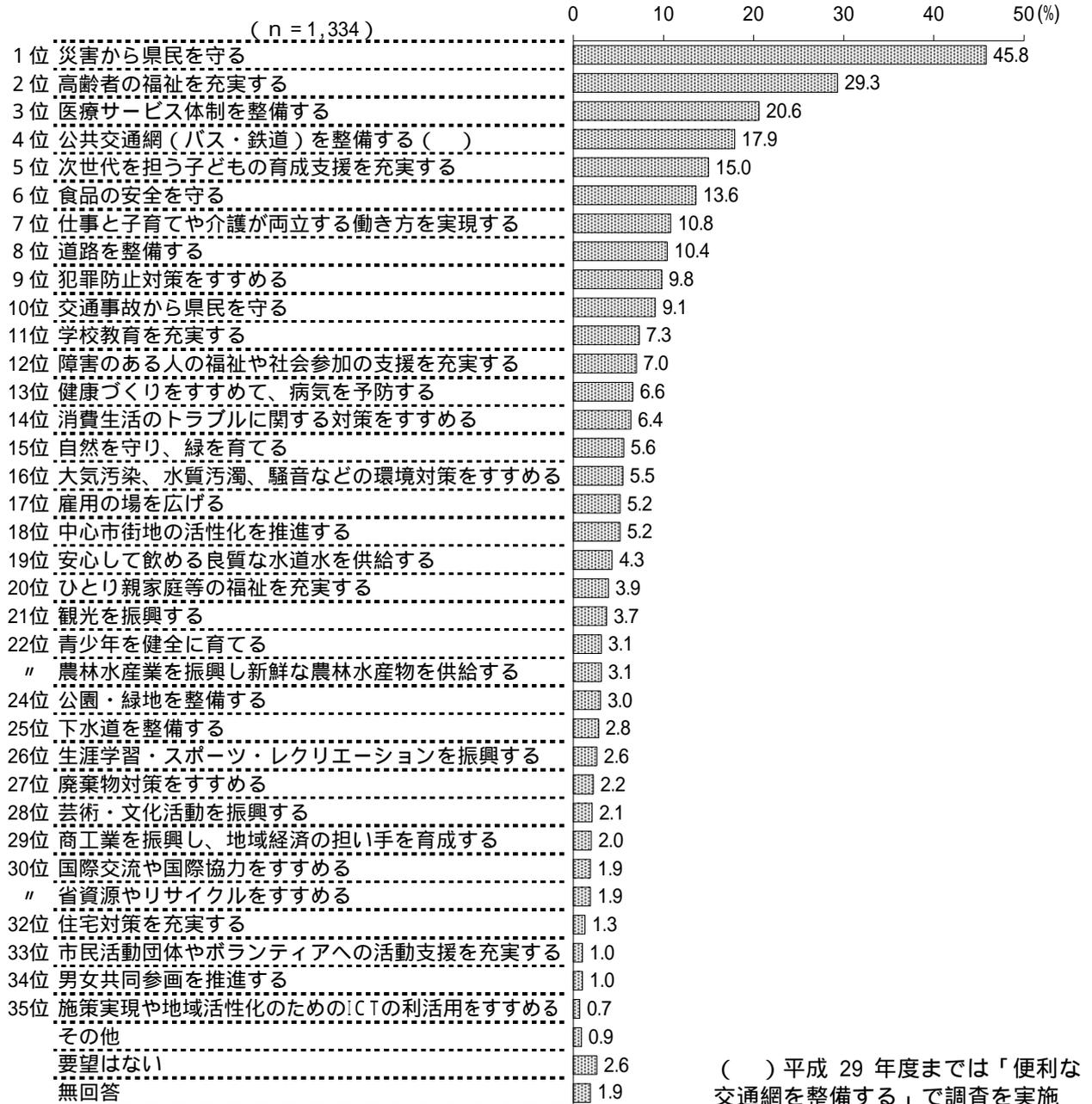
(2) 県政への要望

4 調査の結果

1 県政への要望

(1) 県政への要望

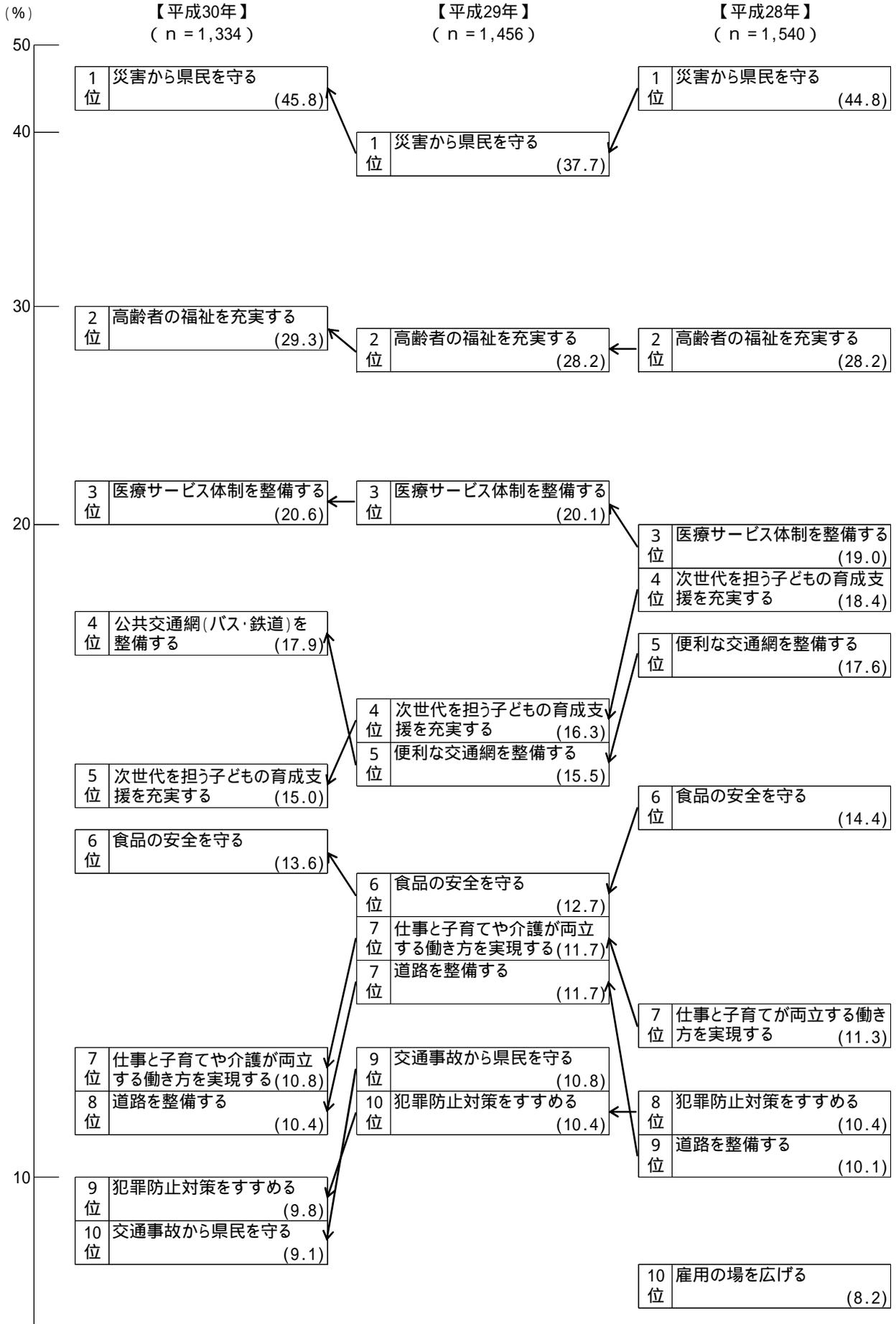
(複数回答：3つまで)



今回調査の主な特徴

1. 「災害から県民を守る」は平成29年度(37.7%)に引き続き1位(45.8%)で、8.1ポイント増加している。
2. 「高齢者の福祉を充実する」は平成29年度(28.2%)に引き続き2位(29.3%)、「医療サービス体制を整備する」は平成29年度(20.1%)に引き続き3位(20.6%)となっている。
3. 「公共交通網(バス・鉄道)を整備する」は平成29年度の5位(15.5%)から4位(17.9%)へ順位を上げている。一方、「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」は平成29年度の4位(16.3%)から5位(15.0%)へ順位を下げている。
4. 「食品の安全を守る」は平成29年度(12.7%)に引き続き6位(13.6%)、「仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する」は平成29年度(11.7%)に引き続き7位(10.8%)となっている。

県政への要望 / 上位 10 項目の推移

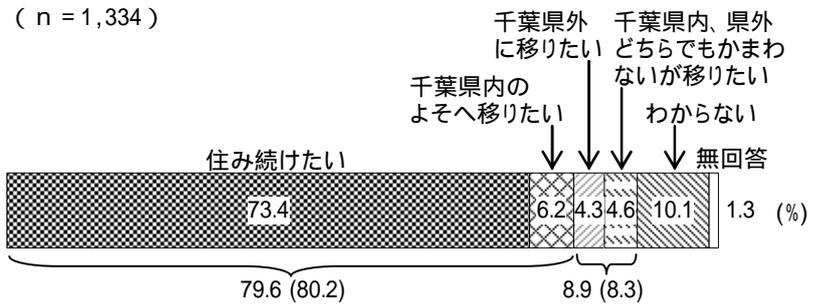


2 環境と生活について

(1) 今後の居留意向

現在お住まいの地域の今後の居留意向を聞いたところ、「住み続けたい」(73.4%)が7割を超え、これと「千葉県内のよそへ移りたい」(6.2%)を合わせた『千葉県内に住み続けたい(計)』(79.6%)が約8割で高くなっている。

一方、「千葉県外に移りたい」(4.3%)と「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」(4.6%)を合わせた『移りたい(計)』(8.9%)は約1割である。

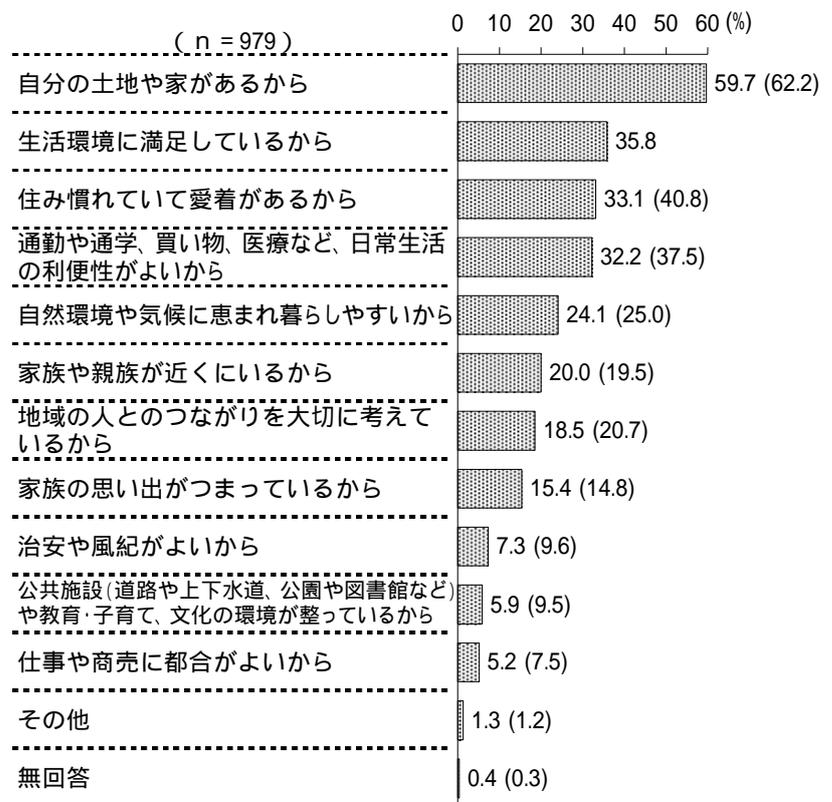


注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

(1-1) 住み続けたい理由

(複数回答：3つまで)

「住み続けたい」と回答した979人を対象に、住み続けたい理由を3つまで選んでもらったところ、「自分の土地や家があるから」(59.7%)が約6割で最も高く、以下、「生活環境に満足しているから」(35.8%)、「住み慣れていて愛着があるから」(33.1%)が続く。



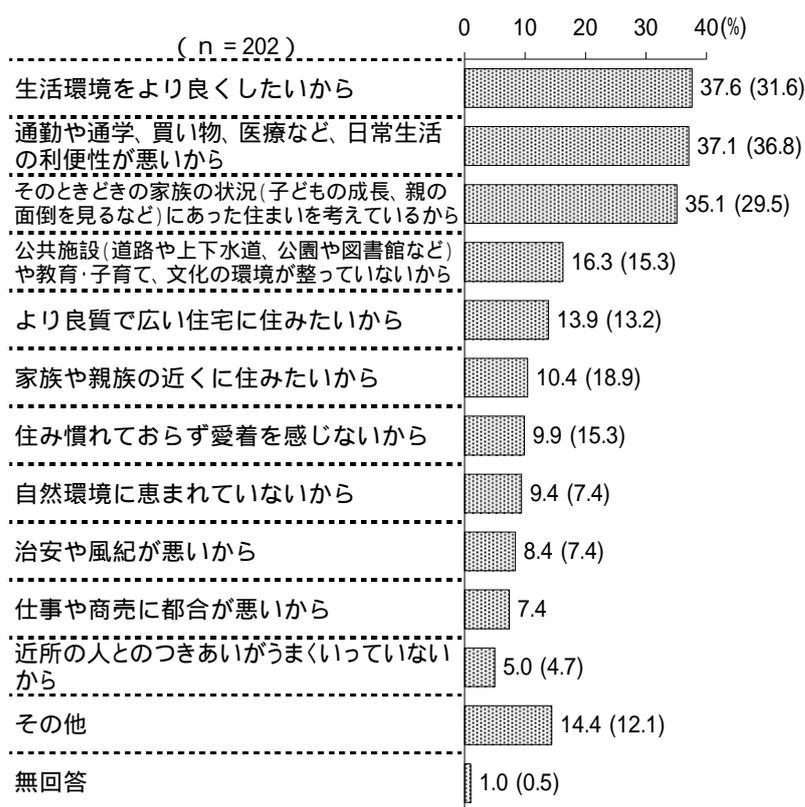
注) () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

() 平成 29 年度調査では、「生活環境に満足しているから」の選択肢は設けていない。

(1 - 2) 移りたい理由

(複数回答 : 3 つまで)

「千葉県内のよそへ移りたい」、
「千葉県外に移りたい」、「千葉県内、
県外どちらでもかまわないが移りたい」と回答した202人を対象に、移りたい理由を3つまで選んでもらったところ、「生活環境をより良くしたいから」(37.6%)と「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性が悪いから」(37.1%)が約4割で最も高く、以下、「そのときどきの家族の状況(子どもの成長、親の面倒を見るなど)にあった住まいを考えているから」(35.1%)、「公共施設(道路や上下水道、公園や図書館など)や教育・子育て、文化の環境が整っていないから」(16.3%)が続く。



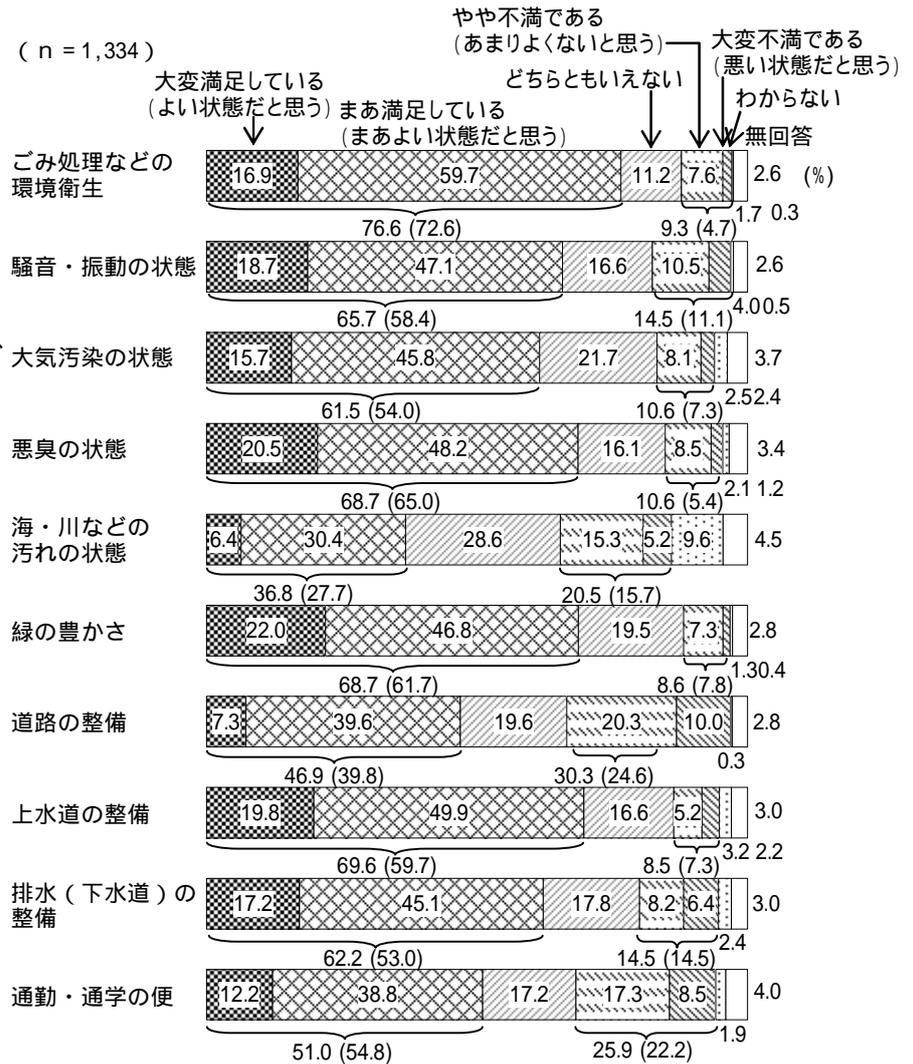
注) () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

() 平成 29 年度調査では、「仕事や商売に都合が悪いから」の選択肢は設けていない。

(2) 現在の生活の満足度

現在の生活に関する10個の項目について、それぞれの満足度を聞いたところ、「大変満足している(よい状態だと思う)」と「まあ満足している(まあよい状態だと思う)」を合わせた『満足している(計)』が最も高いのは、ごみ処理などの環境衛生(76.6%)が7割台半ばとなっており、以下、上水道の整備(69.6%)、悪臭の状態(68.7%)、緑の豊かさ(68.7%)が約7割で続く。

一方、「やや不満である(あまりよくないと思う)」と「大変不満である(悪い状態だと思う)」を合わせた『不満である(計)』が最も高いのは、道路の整備(30.3%)が3割となっており、以下、通勤・通学の便(25.9%)が2割台半ば、海・川などの汚れの状態(20.5%)が2割で続く。

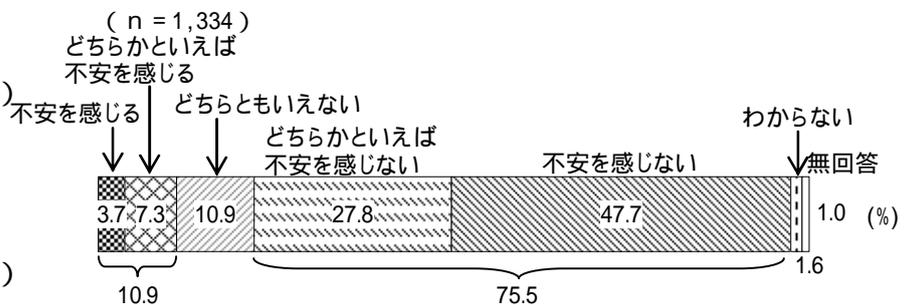


注) 下段の()書きは、平成29年度の調査結果を示している。
 なお、「通勤・通学の便」以外の小問においては、平成29年度は「良いほうだと思う」「悪いほうだと思う」で調査実施。

(3) 生活必需品への不安

普段の生活の中で、生活必需品(食品、トイレットペーパーなど生活雑貨、衣料品など)の安定的な供給体制(消費者がいつでも購入できること)や安全性への不安を聞いたところ、「不安を感じる」(3.7%)と「どちらかといえば不安を感じる」(7.3%)を合わせた『不安を感じる(計)』(10.9%)が1割となっている。

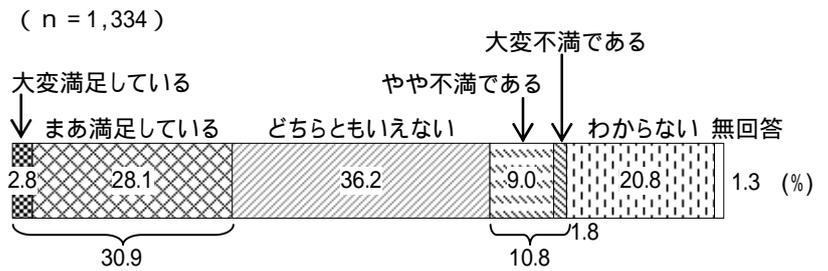
一方、「どちらかといえば不安を感じない」(27.8%)と「不安を感じない」(47.7%)を合わせた『不安を感じない(計)』(75.5%)は7割台半ばで高くなっている。



(4) 消費生活全般の満足度

消費生活全般（消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質商法への対策、生活必需品の安定供給など）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(2.8%)と「まあ満足している」(28.1%)を合わせた『満足している(計)』(30.9%)が3割となっている。

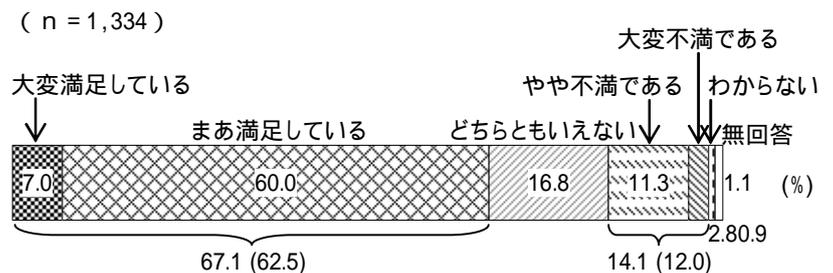
一方、「やや不満である」(9.0%)と「大変不満である」(1.8%)を合わせた『不満である(計)』(10.8%)は1割となっている。



(5) 住生活全般の満足度

現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(7.0%)と「まあ満足している」(60.0%)を合わせた『満足している(計)』(67.1%)が約7割で高くなっている。

一方、「やや不満である」(11.3%)と「大変不満である」(2.8%)を合わせた『不満である(計)』(14.1%)は1割台半ばとなっている。

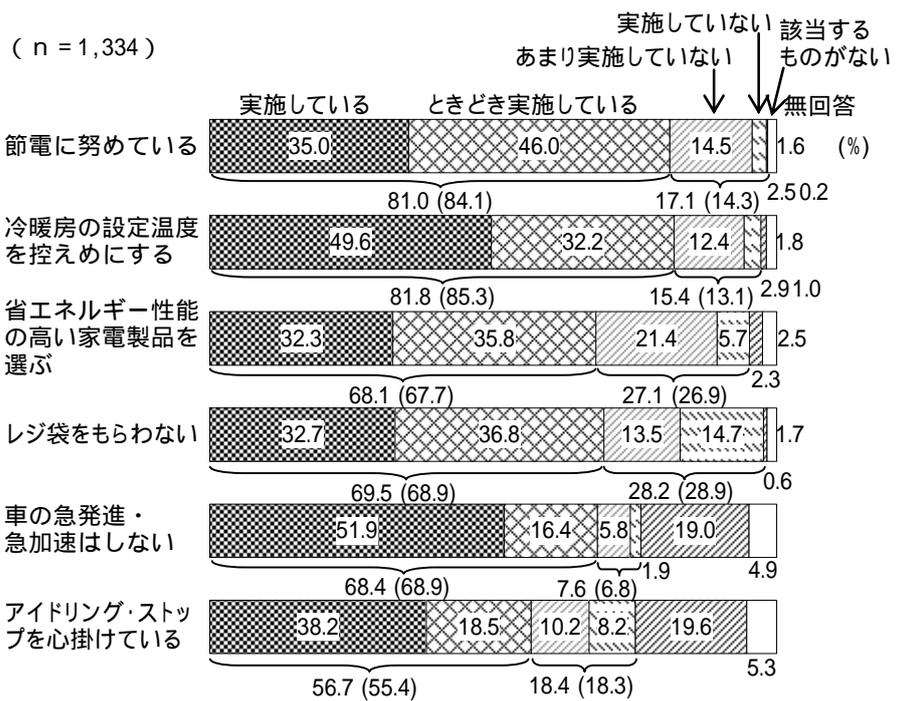


注) 下段の()書きは、平成29年度の調査結果を示している。

(6) 普段の生活で行っている環境保全の取組

普段の生活で行っている環境保全の取組に関する6つの項目について、それぞれの実施状況を聞いたところ、「実施している」と「ときどき実施している」を合わせた『実施している(計)』が最も高いのは、冷暖房の設定温度を控えめにする(81.8%)と節電に努めている(81.0%)が8割を超えており、以下、レジ袋をもらわない(69.5%)、車の急発進・急加速はしない(68.4%)、省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ(68.1%)が約7割で続く。

一方、「あまり実施していない」と「実施していない」を合わせた『実施していない(計)』が最も高いのは、レジ袋をもらわない(28.2%)と省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ(27.1%)が約3割となっており、以下、アイドリング・ストップを心掛けている(18.4%)と節電に努めている(17.1%)が約2割で続く。

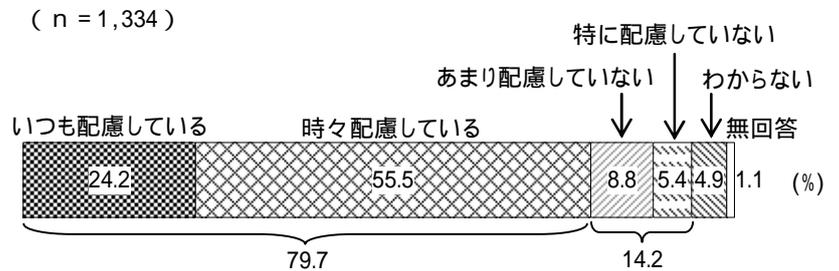


注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

(7) 環境に配慮した行動

日常生活の中で環境に配慮して行動しているか聞いたところ、「いつも配慮している」(24.2%)と「時々配慮している」(55.5%)を合わせた『配慮している(計)』(79.7%)が約8割で高くなっている。

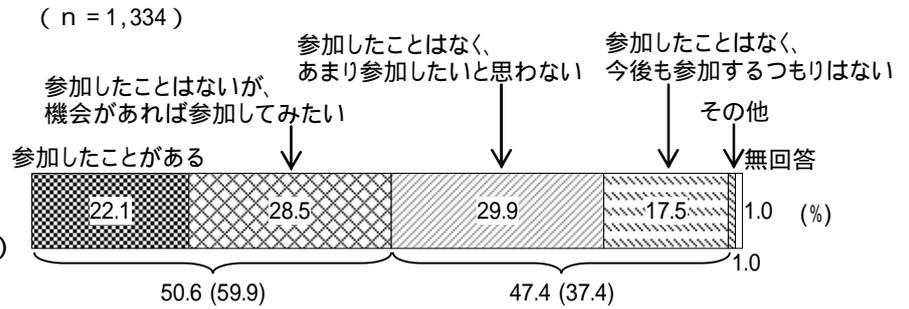
一方、「あまり配慮していない」(8.8%)と「特に配慮していない」(5.4%)を合わせた『配慮していない(計)』(14.2%)は1割台半ばとなっている。



(8) 環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティアへの参加状況

環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティアへの参加状況を聞いたところ、「参加したことがある」(22.1%)が2割を超えており、これと「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」(28.5%)を合わせた『参加意向あり(計)』(50.6%)が5割となっている。

一方、「参加したことはない、あまり参加したいと思わない」(29.9%)と「参加したことはない、今後も参加するつもりはない」(17.5%)を合わせた『参加意向なし(計)』(47.4%)は約5割となっている。

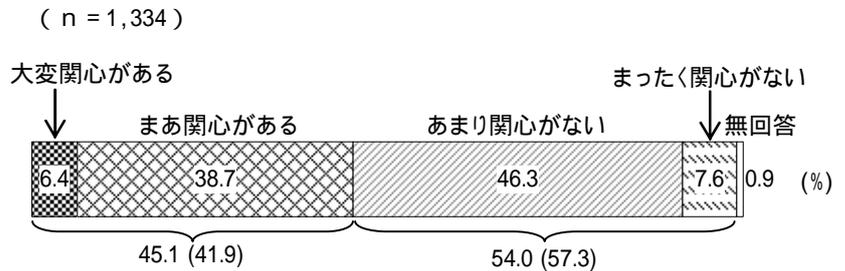


注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

(9) 市民活動団体やボランティア活動の関心度

市民活動団体の活動や、ボランティア活動の関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(6.4%)と「まあ関心がある」(38.7%)を合わせた『関心がある(計)』(45.1%)が4割台半ばとなっている。

一方、「あまり関心がない」(46.3%)と「まったく関心がない」(7.6%)を合わせた『関心がない(計)』(54.0%)は5割台半ばとなっている。

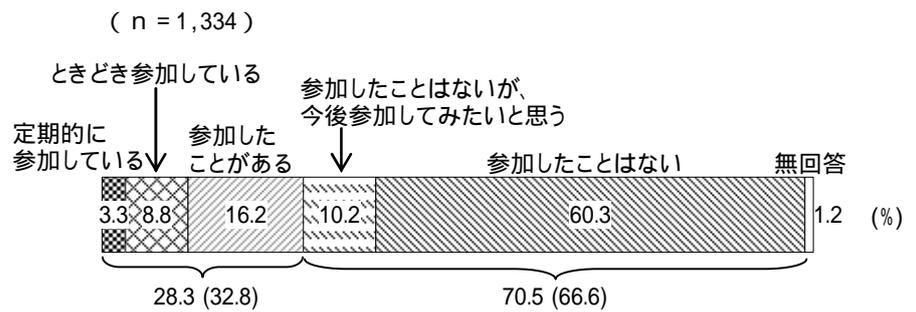


注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

(10) 市民活動団体の活動への参加経験

市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」(3.3%)と「ときどき参加している」(8.8%)、「参加したことがある」(16.2%)の3つを合わせた『参加したことがある(計)』(28.3%)が約3割となっている。

一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」(10.2%)と「参加したことはない」(60.3%)を合わせた『参加したことはない(計)』(70.5%)が7割で高くなっている。

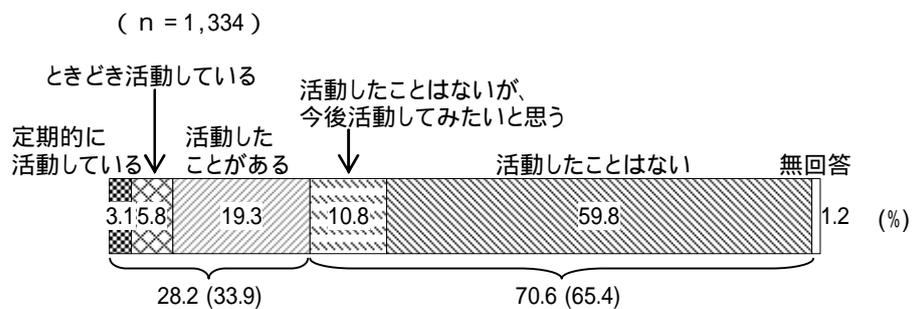


注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

(11) ボランティア活動経験

ボランティアとして活動したことがあるか聞いたところ、「定期的に参加している」(3.1%)と「ときどき活動している」(5.8%)、「活動したことがある」(19.3%)の3つを合わせた『活動したことがある(計)』(28.2%)が約3割となっている。

一方、「活動したことはないが、今後活動してみたいと思う」(10.8%)と「活動したことはない」(59.8%)を合わせた『活動したことはない(計)』(70.6%)が7割で高くなっている。

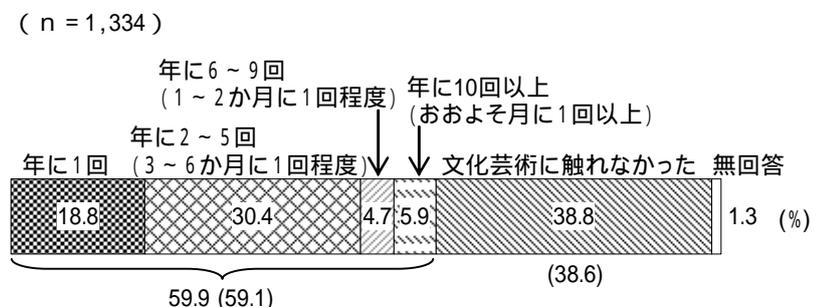


注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

(12) この1年間の文化芸術に触れた頻度

この1年間で何回くらい文化芸術に触れたか聞いたところ、「年に1回」(18.8%)と「年に2～5回(3～6か月に1回程度)」(30.4%)、「年に6～9回(1～2か月に1回程度)」(4.7%)、「年に10回以上(おおよそ月に1回以上)」(5.9%)の4つを合わせた『触れたことがある(計)』(59.9%)は約6割で高くなっている。

一方、「文化芸術に触れなかった」(38.8%)は約4割となっている。



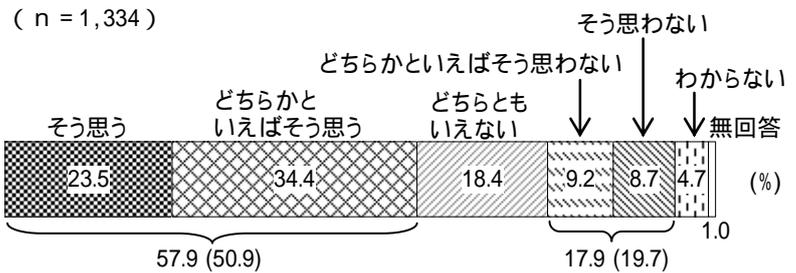
注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

3 健康について

(1) 健康づくりに取り組むことができる環境

自分が積極的に健康づくりに取り組むことができる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(23.5%)と「どちらかといえばそう思う」(34.4%)を合わせた『そう思う(計)』(57.9%)が約6割で高くなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.2%)と「そう思わない」(8.7%)を合わせた『そう思わない(計)』(17.9%)は約2割となっている。

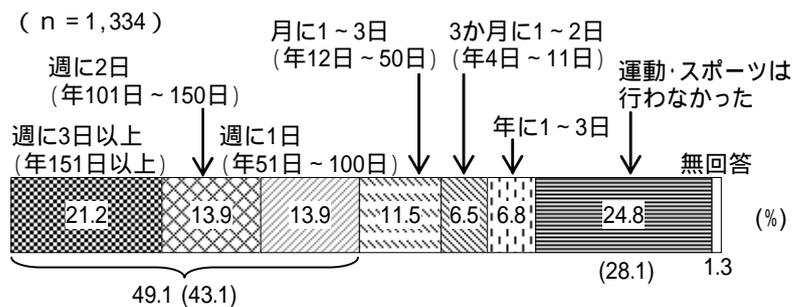


注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。
() 平成 30 年度調査から、「健康づくり」の説明を設問に追加した。

(2) 健康づくりのための運動

健康づくりなどのために1年間に何日くらい運動やスポーツを行ったか聞いたところ、「週に3日以上(年151日以上)」(21.2%)と「週に2日(年101日~150日)」(13.9%)、「週に1日(年51日~100日)」(13.9%)を合わせた『週1日以上運動した(計)』(49.1%)は約5割となっている。

一方、「運動・スポーツは行わなかった」(24.8%)は2割台半ばとなっている。

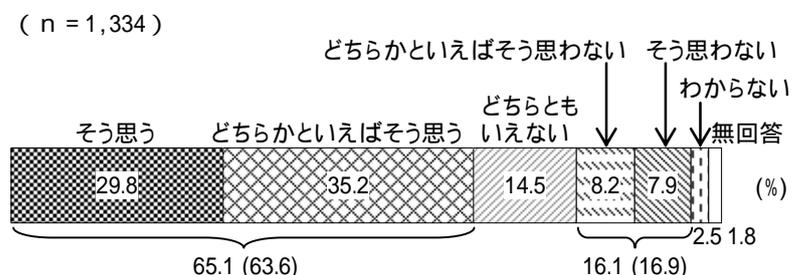


注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

(3) 安心して受診できる医療体制

住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(29.8%)と「どちらかといえばそう思う」(35.2%)を合わせた『そう思う(計)』(65.1%)が6割台半ばで高くなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(8.2%)と「そう思わない」(7.9%)を合わせた『そう思わない(計)』(16.1%)は1割台半ばとなっている。



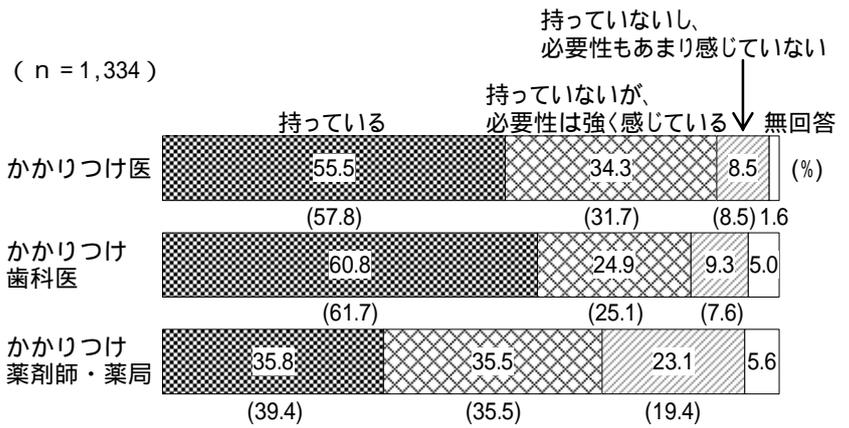
注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

(4) かかりつけ医の有無

かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師・薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は かかりつけ歯科医 (60.8%) が6割、かかりつけ医 (55.5%) が5割台半ば、かかりつけ薬剤師・薬局 (35.8%) が3割台半ばとなっている。

また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は かかりつけ薬剤師・薬局 (35.5%) と かかりつけ医 (34.3%) が3割台半ばとなっている。

「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は かかりつけ薬剤師・薬局 (23.1%) が2割を超えている。



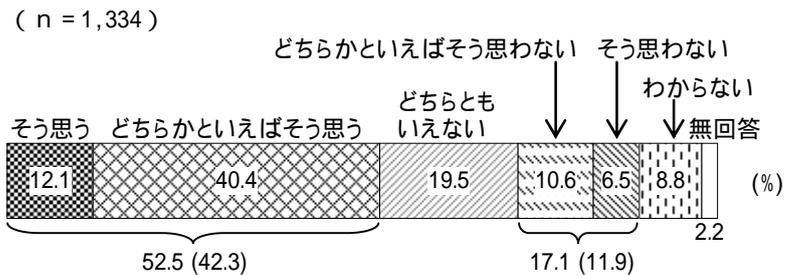
注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

4 福祉について

(1) 安心して子育てできる環境

自分が安心して子育てできる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(12.1%)と「どちらかといえばそう思う」(40.4%)を合わせた『そう思う(計)』(52.5%)が5割を超えて高くなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(10.6%)と「そう思わない」(6.5%)を合わせた『そう思わない(計)』(17.1%)は約2割となっている。

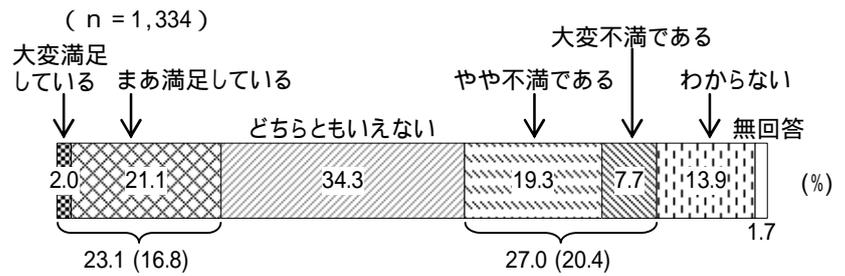


注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。
() 平成 30 年度調査から、回答方法と「子育て」の説明を設問に追加した。

(2) お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について

お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(2.0%)と「まあ満足している」(21.1%)を合わせた『満足している(計)』(23.1%)が2割を超えている。

一方、「やや不満である」(19.3%)と「大変不満である」(7.7%)を合わせた『不満である(計)』(27.0%)は約3割となっている。

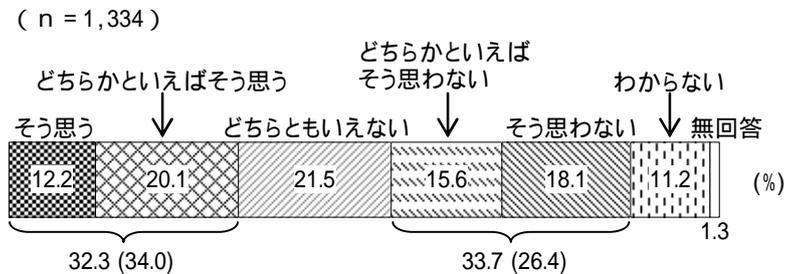


注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。
() 平成 30 年度調査から、回答方法の説明を設問に追加した。

(3) 介護が必要になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられるか

自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられると思うか聞いたところ、「そう思う」(12.2%)と「どちらかといえばそう思う」(20.1%)を合わせた『そう思う(計)』(32.3%)が3割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(15.6%)と「そう思わない」(18.1%)を合わせた『そう思わない(計)』(33.7%)は3割台半ばとなっている。

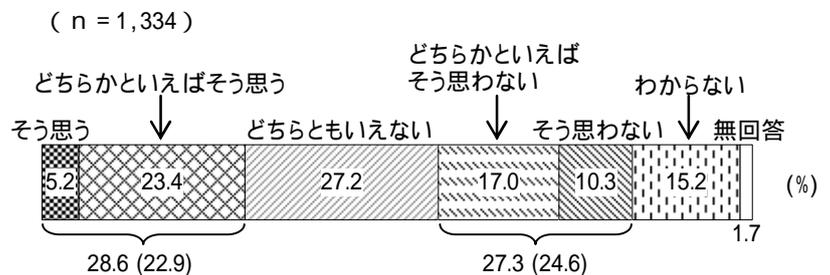


注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

(4) 高齢者の社会参加について

高齢者が多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.2%)と「どちらかといえばそう思う」(23.4%)を合わせた『そう思う(計)』(28.6%)が約3割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(17.0%)と「そう思わない」(10.3%)を合わせた『そう思わない(計)』(27.3%)は約3割となっている。

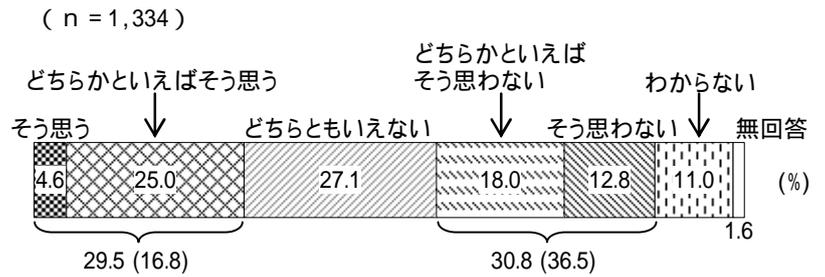


注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。
() 平成 30 年度調査から、回答方法の説明を設問に追加した。

(5) 安心して暮らせる地域社会づくりについて

地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.6%)と「どちらかといえばそう思う」(25.0%)を合わせた『そう思う(計)』(29.5%)が約3割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(18.0%)と「そう思わない」(12.8%)を合わせた『そう思わない(計)』(30.8%)は3割となっている。

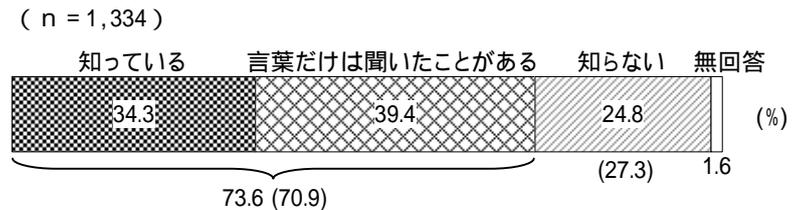


注) 下段の()書きは、平成29年度の調査結果を示している。
 ()平成30年度調査から、設問文から「近年、少子高齢化の進行や一人暮らし世帯・核家族世帯の増加等を背景に家庭内や地域の支え合いの力が弱まっていると言われています。」の一文を削除した。

(6) 「共生社会」の認知度

「共生社会」という考え方を知っているか聞いたところ、「知っている」(34.3%)と「言葉だけは聞いたことがある」(39.4%)を合わせた『聞いたことがある(計)』(73.6%)が7割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」(24.8%)は2割台半ばとなっている。

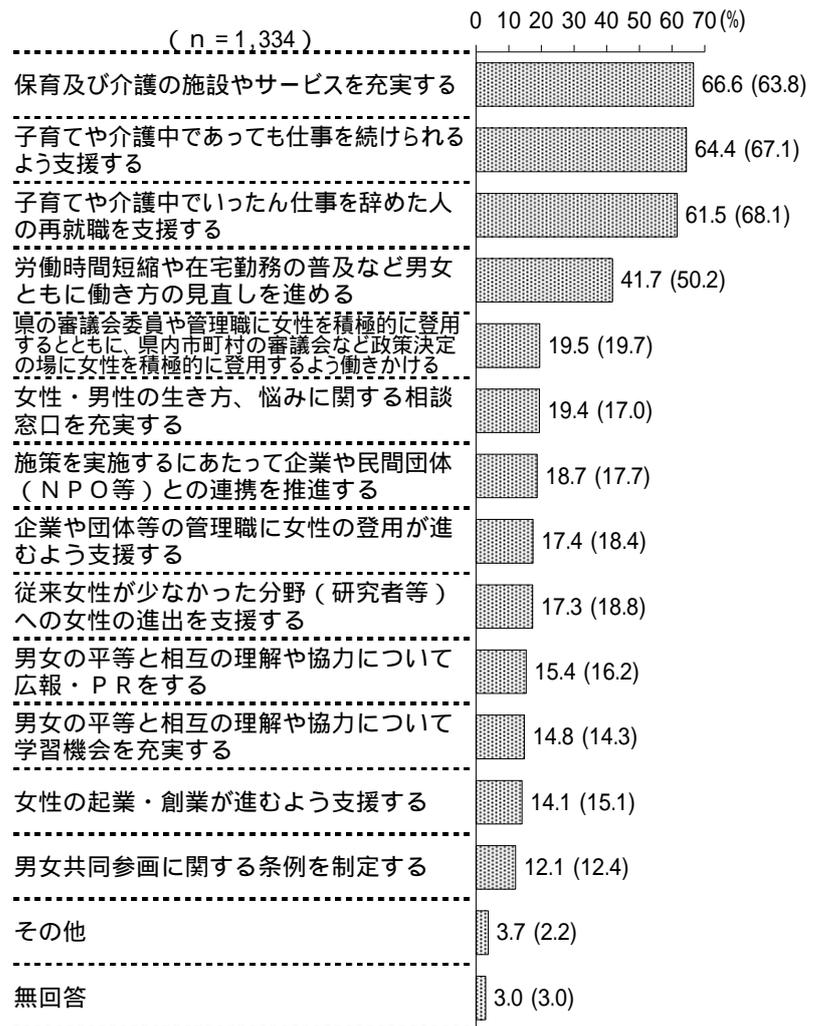


「共生社会」とは、具体的には、人々の生活や心において「障害者」という区切りのない社会です。

注) 下段の()書きは、平成29年度の調査結果を示している。

(7) 男女共同参画社会を実現するための取組

男女共同参画社会の実現のために今後県が力を入れるべき取組を聞いたところ、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」(66.6%)と「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」(64.4%)が6割台半ばで最も高く、以下、「子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(61.5%)、「労働時間短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」(41.7%)が続く。



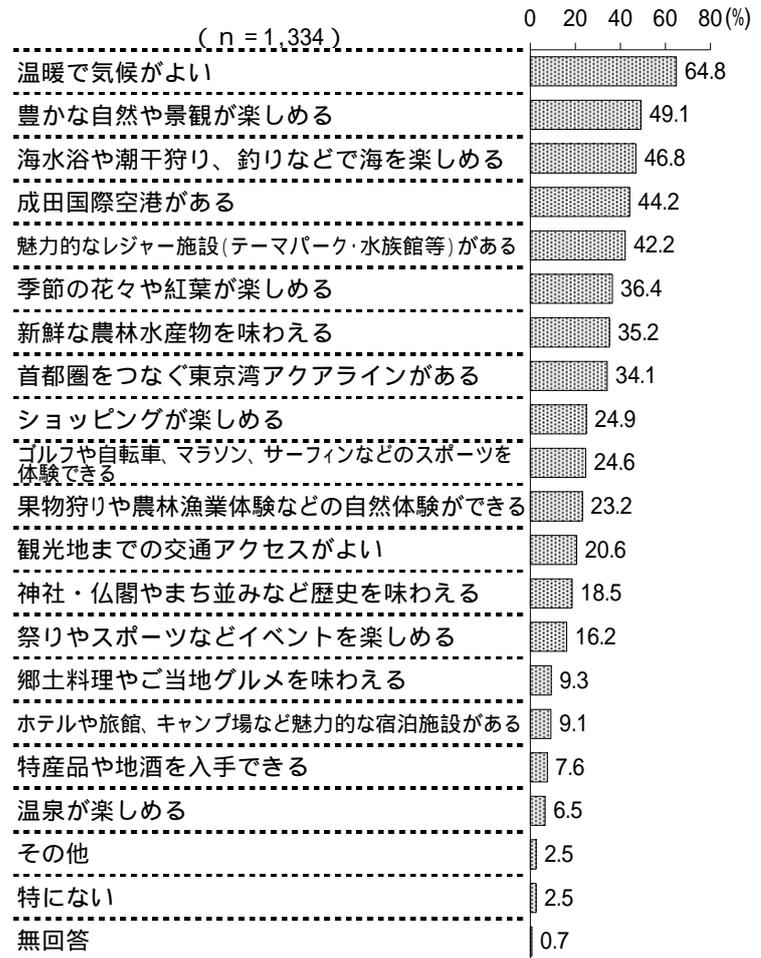
注)()書きは、平成29年度の調査結果を示している。

5 観光について

(1) 千葉県の魅力

(複数回答:いくつでも)

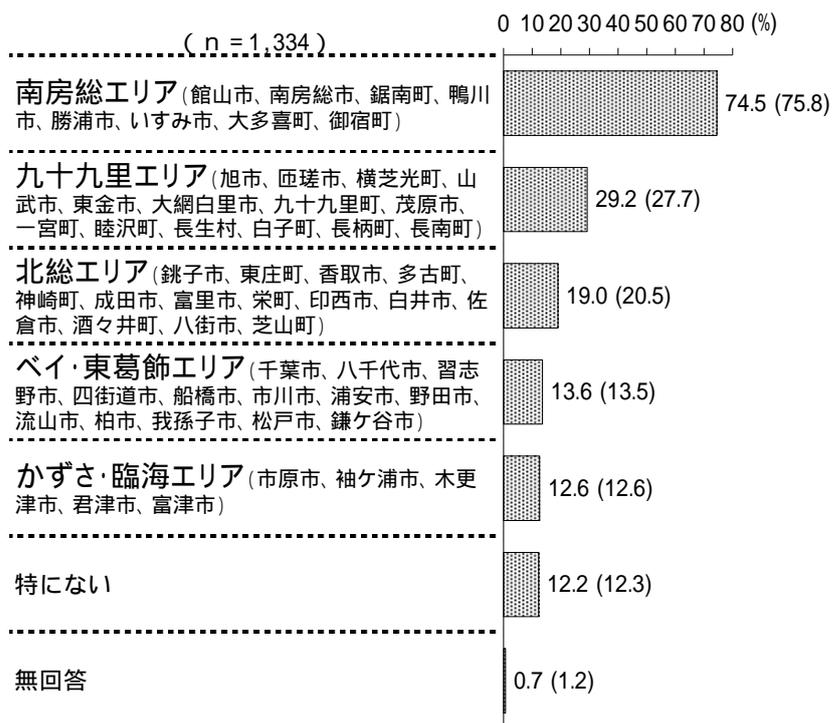
千葉県の魅力は何だと思うか聞いたところ、「温暖で気候がよい」(64.8%)が6割台半ばで最も高く、以下、「豊かな自然や景観が楽しめる」(49.1%)、「海水浴や潮干狩り、釣りなどで海を楽しめる」(46.8%)、「成田国際空港がある」(44.2%)、「魅力的なレジャー施設(テーマパーク・水族館等)がある」(42.2%)が続く。



(2) 県内で旅行に行きたいエリア

(複数回答:いくつかでも)

県内で旅行に行きたいエリアは
どこか聞いたところ、「南房総エリア」
(74.5%)が7割台半ばで最も高く、
以下、「九十九里エリア」(29.2%)、
「北総エリア」(19.0%)、「ベイ・
東葛飾エリア」(13.6%)、「かずさ・
臨海エリア」(12.6%)が続く。

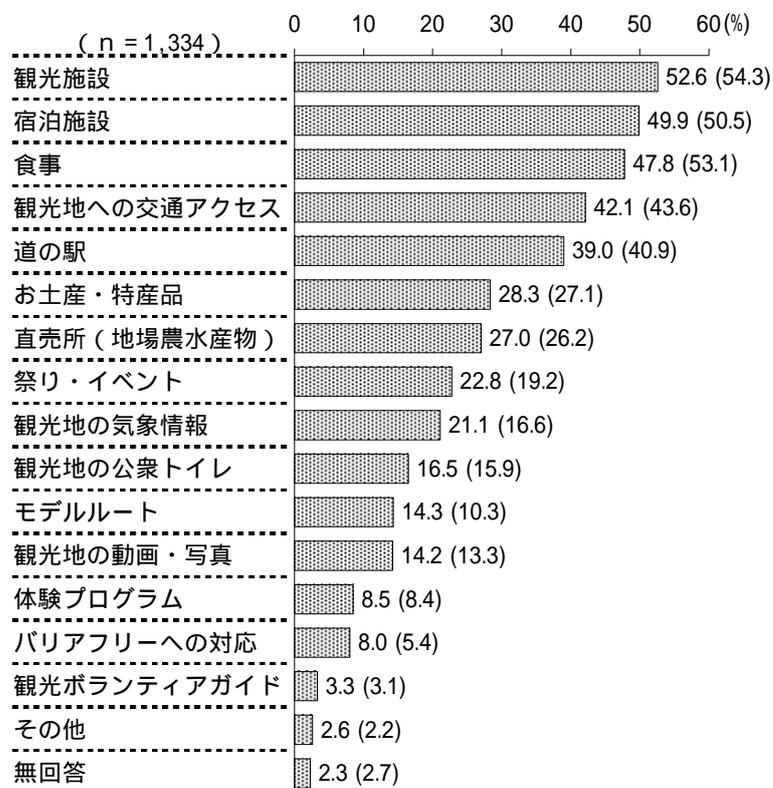


注) () 書きは、平成29年度の調査結果を示している。

(3) 県内を観光する際に事前に知りたい情報

(複数回答:いくつかでも)

県内を観光する際に事前に知りたい情報は何か聞いたところ、「観光施設」(52.6%)が5割を超えて最も高く、以下、「宿泊施設」(49.9%)、「食事」(47.8%)、「観光地への交通アクセス」(42.1%)、「道の駅」(39.0%)が続く。

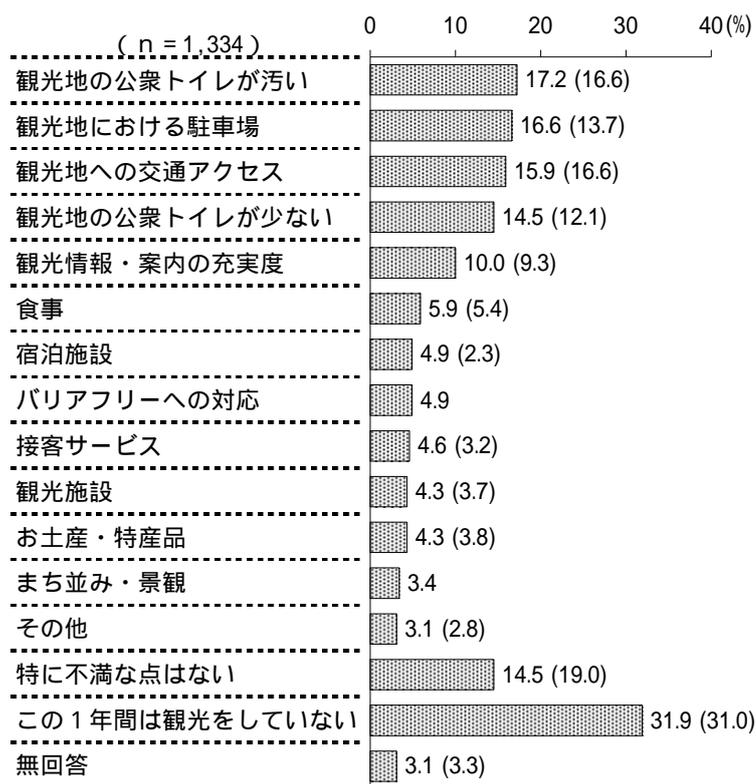


注) () 書きは、平成29年度の調査結果を示している。

(4) この1年間に県内を観光した際の不満

(複数回答: いくつでも)

この1年間で県内を観光した際に不満を感じたことを聞いたところ、「観光地の公衆トイレが汚い」(17.2%)が約2割で最も高く、以下、「観光地における駐車場」(16.6%)、「観光地への交通アクセス」(15.9%)、「観光地の公衆トイレが少ない」(14.5%)が続く。



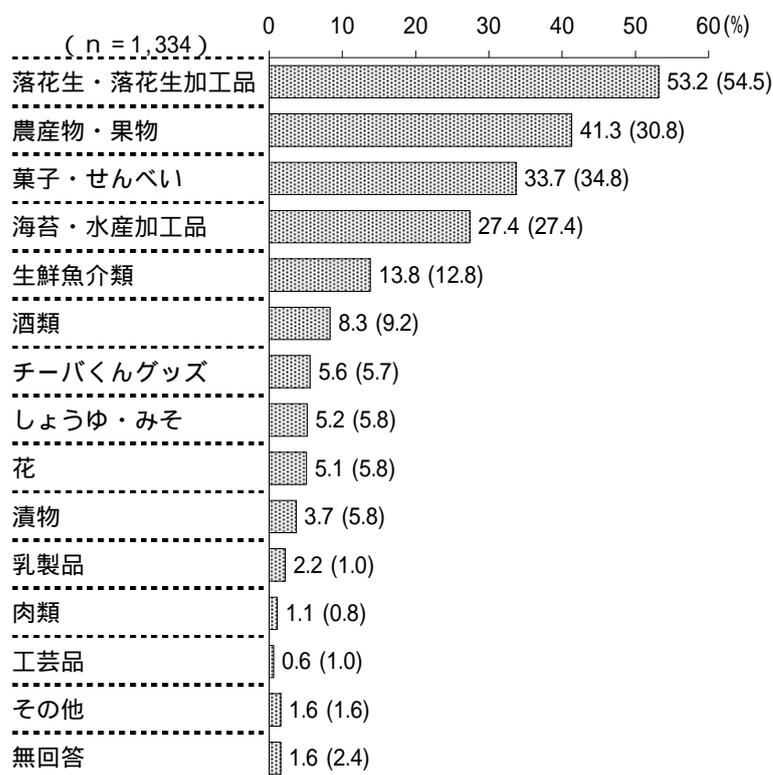
注) () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

() 平成 29 年度調査では、「バリアフリーへの対応」、「まち並み・景観」の選択肢は設けていない。

(5) 県産品をお土産や贈答品として使う場合、贈るもの

(複数回答: 3つまで)

県産品をお土産や贈答品として使う場合、何を贈るか3つまで選んでもらったところ、「落花生・落花生加工品」(53.2%)が5割を超えて最も高く、以下、「農産物・果物」(41.3%)、「菓子・せんべい」(33.7%)、「海苔・水産加工品」(27.4%)、「生鮮魚介類」(13.8%)が続く。



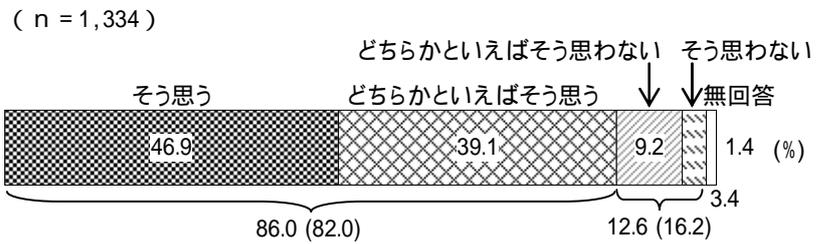
注) () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

6 千葉県の農林水産物について

(1) 千葉県産農林水産物の購入意向

千葉県産農林水産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(46.9%)と「どちらかといえばそう思う」(39.1%)を合わせた『そう思う(計)』(86.0%)が8割台半ばで高くなっている。

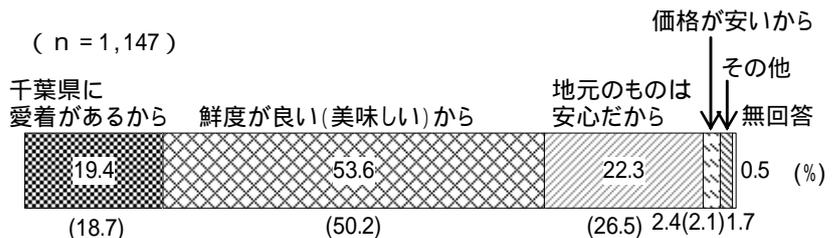
一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.2%)と「そう思わない」(3.4%)を合わせた『そう思わない(計)』(12.6%)は1割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

(1-1) 千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由

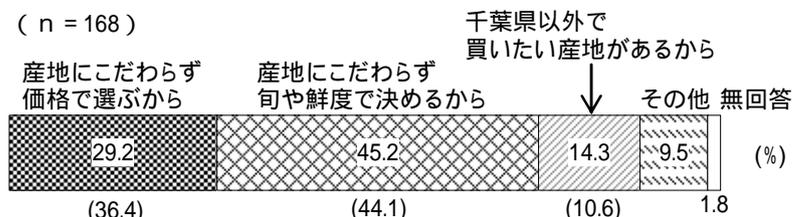
千葉県産農林水産物を購入したいと回答した1,147人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「鮮度が良い(美味しい)から」(53.6%)が5割台半ばで最も高く、以下、「地元のもの安心だから」(22.3%)、「千葉県に愛着があるから」(19.4%)、「価格が安いから」(2.4%)が続く。



注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

(1-2) 千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由

千葉県産農林水産物を購入したいと思わないと回答した168人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」(45.2%)が4割台半ばで最も高く、以下、「産地にこだわらず価格で選ぶから」(29.2%)、「千葉県以外で買いたい産地があるから」(14.3%)が続く。

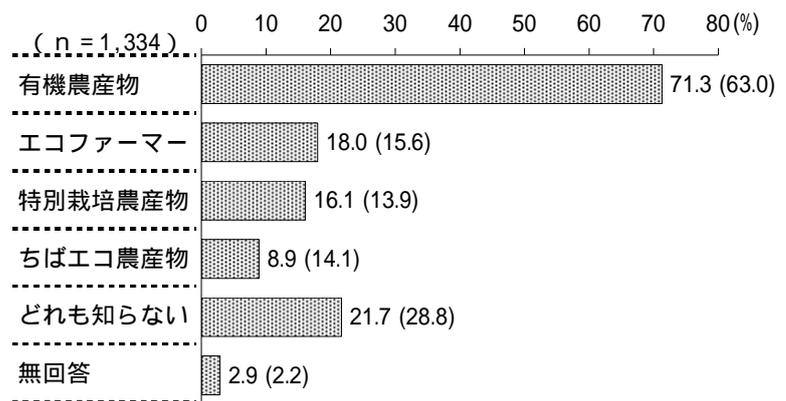


注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

(2) 環境にやさしい農産物や制度の認知度

(複数回答: いくつでも)

環境に配慮して生産される農産物や制度を知っているか聞いたところ、「有機農産物」(71.3%)が7割を超えて最も高く、以下、「エコファーマー」(18.0%)、「特別栽培農産物」(16.1%)、「ちばエコ農産物」(8.9%)が続く。

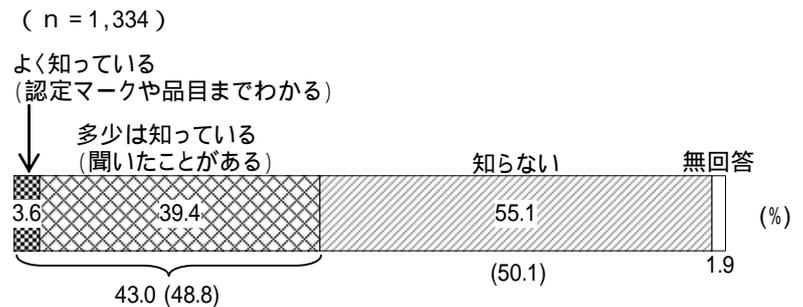


注) () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

(3) 「千葉ブランド水産物」の認知度

「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている(認定マークや品目までわかる)」(3.6%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(39.4%)を合わせた『知っている(計)』(43.0%)が4割を超えている。

一方、「知らない」(55.1%)は5割台半ばとなっている。



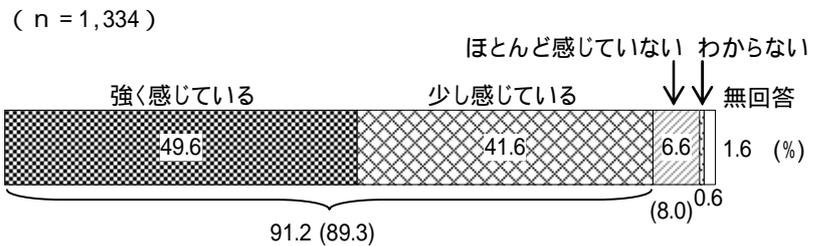
注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

7 防災に関する取り組みについて

(1) 大地震や風水害への不安

大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」(49.6%)と「少し感じている」(41.6%)を合わせた『感じている(計)』(91.2%)が9割を超えて高くなっている。

一方、「ほとんど感じていない」(6.6%)は1割未満となっている。

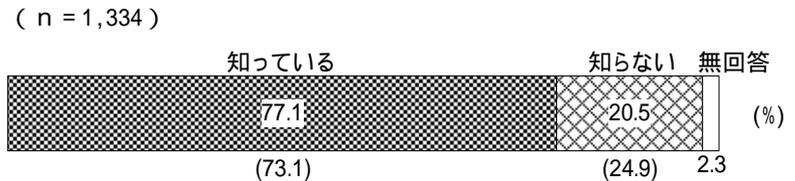


注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

(2) 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度

「避難勧告」「避難指示」の意味や違いを知っているか聞いたところ、「知っている」(77.1%)が約8割で高くなっている。

一方、「知らない」(20.5%)は2割となっている。

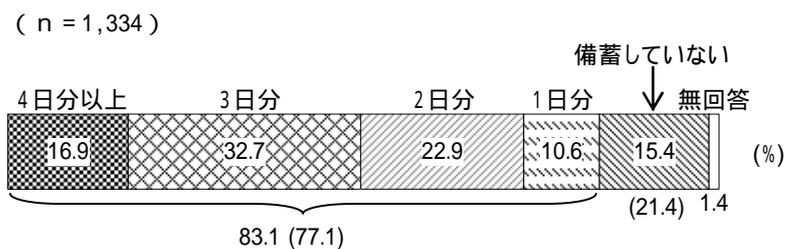


注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

(3) 飲料水や食料の備蓄状況

飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「3日分」(32.7%)が3割を超え、「2日分」(22.9%)が2割を超え、「4日分以上」(16.9%)が1割台半ば、「1日分」(10.6%)が1割となっており、この4つを合わせた『備蓄している(計)』(83.1%)が8割を超えて高くなっている。

一方、「備蓄していない」(15.4%)は1割台半ばとなっている。

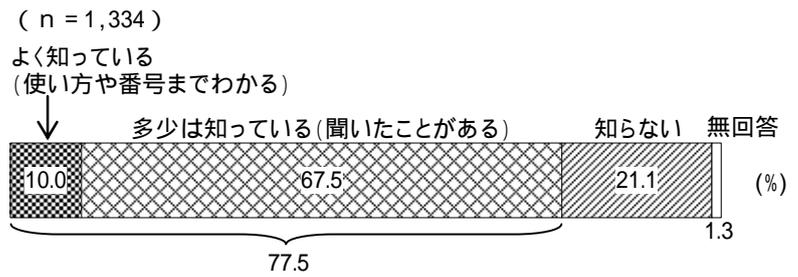


注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

(4) 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

災害伝言板・災害用伝言ダイヤルを知っているか聞いたところ、「よく知っている(使い方や番号までわかる)」(10.0%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(67.5%)を合わせた『知っている(計)』(77.5%)が約8割で高くなっている。

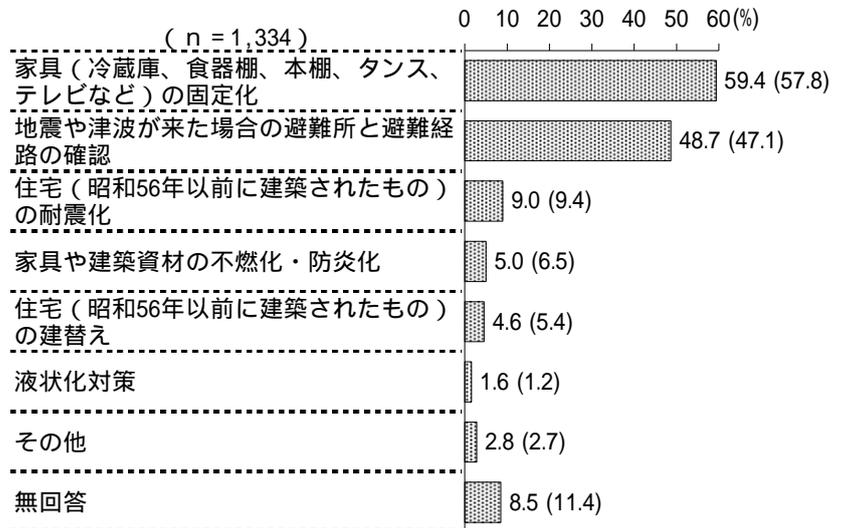
一方、「知らない」(21.1%)は2割を超えている。



(5) 地震の被害を防ぐための対策

(複数回答:いくつでも)

地震の被害を防ぐため、どのような対策を行っている(行う予定)か聞いたところ、「家具(冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど)の固定化」(59.4%)が約6割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難所と避難経路の確認」(48.7%)、「住宅(昭和56年以前に建築されたもの)の耐震化」(9.0%)が続く。



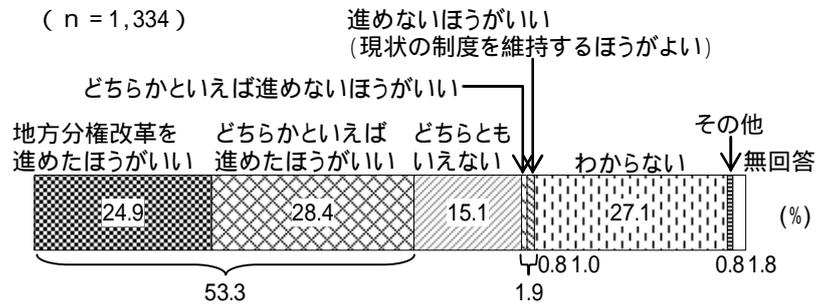
注) () 書きは、平成29年度の調査結果を示している。

8 地方分権について

(1) 地方分権改革を進めることについて

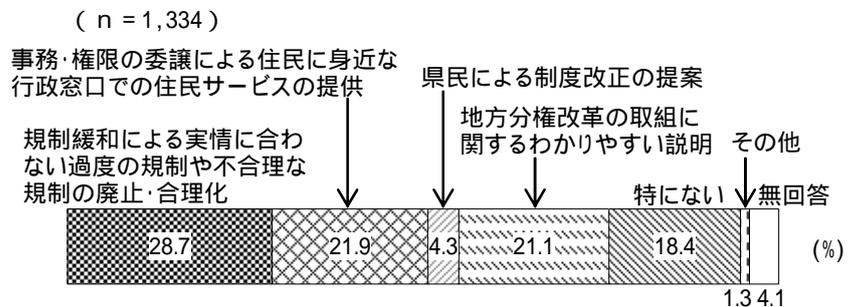
地方分権改革を進めることについて聞いたところ、「地方分権改革を進めたほうがいい」(24.9%)と「どちらかといえば進めたほうがいい」(28.4%)を合わせた『進めたほうがいい(計)』(53.3%)が5割を超えて高くなっている。

一方、「どちらかといえば進めないほうがいい」(0.8%)と「進めないほうがいい(現状の制度を維持するほうがよい)」(1.0%)を合わせた『進めないほうがいい(計)』(1.9%)はわずかとなっている。



(2) 地方分権改革で期待する主な効果

県が進める地方分権改革の取組について期待する効果を聞いたところ、「規制緩和による実情に合わない過度の規制や不合理な規制の廃止・合理化」(28.7%)が約3割で最も高く、以下、「事務・権限の委譲による住民に身近な行政窓口での住民サービスの提供」(21.9%)、「地方分権改革の取組に関するわかりやすい説明」(21.1%)、「県民による制度改正の提案」(4.3%)が続く。

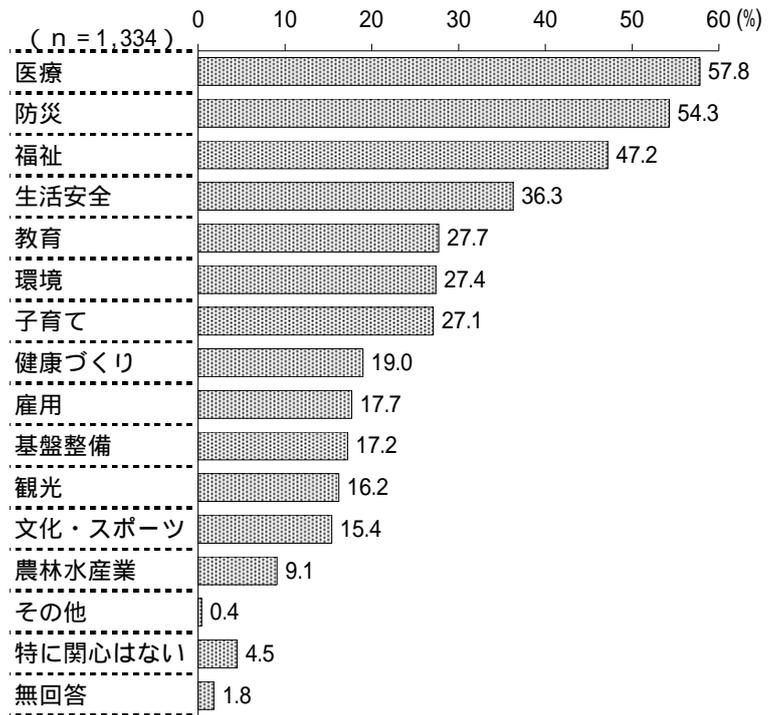


9 広報・広聴活動について

(1) 関心のある県政分野

(複数回答：いくつでも)

関心のある県の施策や政策の分野を聞いたところ、「医療」(57.8%)が約6割で最も高く、以下、「防災」(54.3%)、「福祉」(47.2%)、「生活安全」(36.3%)、「教育」(27.7%)が続く。

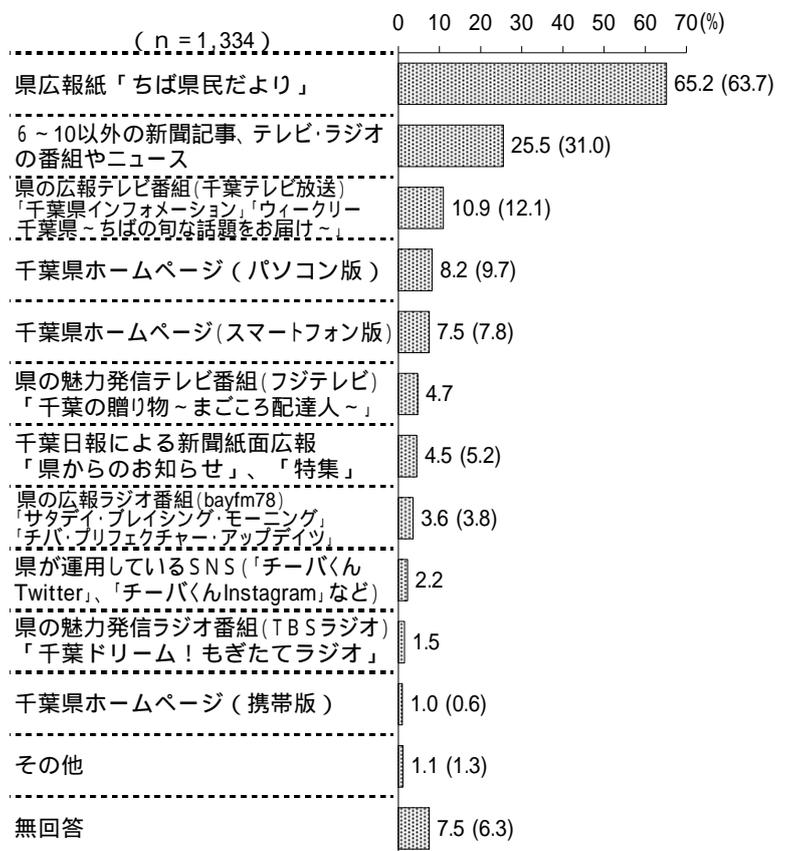


(2) 県政に関する情報を得る手段

(複数回答：いくつでも)

県政に関する情報を得る手段を聞いたところ、「県広報紙『ちば県民だより』」(65.2%)が6割台半ばで最も高く、以下、「6～10以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」(25.5%)、「県の広報テレビ番組(千葉テレビ放送)『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」(10.9%)が続く。

() 「6～10以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、6～10とは、「千葉日報による新聞紙面広報『県からのお知らせ』『特集』」「県の広報テレビ番組(千葉テレビ放送)『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」「県の広報ラジオ番組(bayfm78)『サタデー・ブレイキング・モーニング』『チバ・プリフェクチャー・アップデート』」「県の魅力発信テレビ番組(フジテレビ)『千葉の贈り物～まごころ配達人～』」「県の魅力発信ラジオ番組(TBSラジオ)『千葉ドリーム!もぎたてラジオ』」を指す。

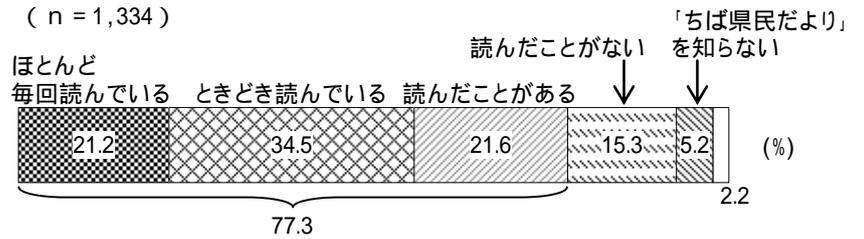


注) () 書きは、平成29年度の調査結果を示している。

() 平成29年度調査では、「県の魅力発信テレビ番組(フジテレビ)『千葉の贈り物～まごころ配達人～』」「県が運用しているSNS(『チーバくん Twitter』『チーバくん Instagram』など)」「県の魅力発信ラジオ番組(TBSラジオ)『千葉ドリーム!もぎたてラジオ』」の選択肢は設けていない。

(3) 県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況

県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況を聞いたところ、「ほとんど毎回読んでいる」(21.2%)と「ときどき読んでいる」(34.5%)、「読んだことがある」(21.6%)の3つを合わせた『読んだことがある(計)』(77.3%)が約8割で高くなっている。

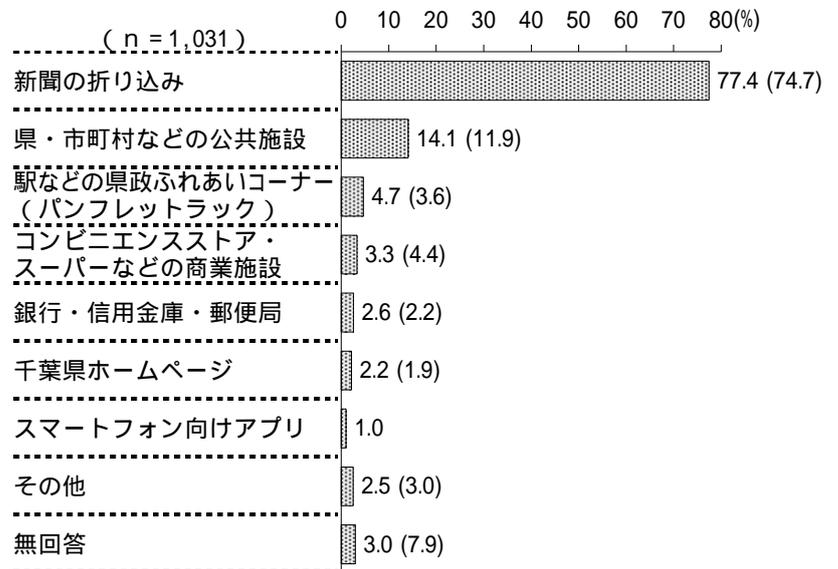


一方、「読んだことがない」(15.3%)が1割台半ば、「『ちば県民だより』を知らない」(5.2%)は1割未満となっている。

(3-1) 「ちば県民だより」の入手場所について

(複数回答: いくつでも)

県広報紙「ちば県民だより」を「ほとんど毎回読んでいる」、「ときどき読んでいる」、「読んだことがある」と回答した1,031人を対象に、「ちば県民だより」をどこで入手しているか聞いたところ、「新聞の折り込み」(77.4%)が約8割で最も高く、以下、「県・市町村などの公共施設」(14.1%)、「駅などの県政ふれあいコーナー(パンフレットラック)」(4.7%)が続く。

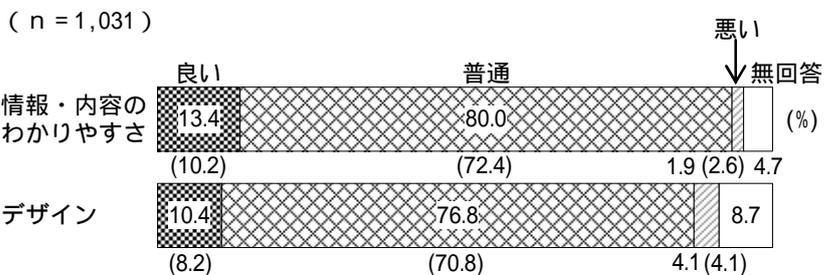


注) () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

() 平成 29 年度調査では、「スマートフォン向けアプリ」の選択肢は設けていない。

(3-2) 「ちば県民だより」の内容について

県広報紙「ちば県民だより」を「ほとんど毎回読んでいる」、「ときどき読んでいる」、「読んだことがある」と回答した1,031人を対象に、「ちば県民だより」の内容について聞いたところ、情報・内容のわかりやすさの「良い」(13.4%)が1割を超え、「普通」(80.0%)は8割となっている。



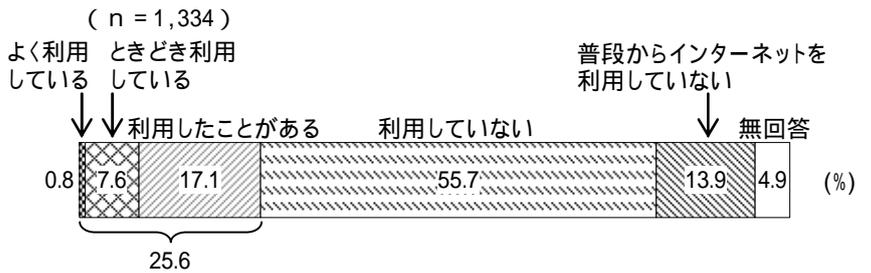
注) 下段の () 書きは、平成 29 年度の調査結果を示している。

また、「デザイン」の「良い」(10.4%)が1割、「普通」(76.8%)は7割台半ばとなっている。

(4) 千葉県ホームページの利用頻度

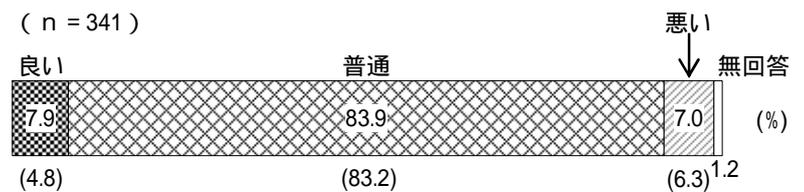
千葉県ホームページの利用頻度を聞いたところ、「よく利用している」(0.8%)と「ときどき利用している」(7.6%)、「利用したことがある」(17.1%)の3つを合わせた『利用したことがある(計)』(25.6%)が2割台半ばとなっている。

一方、「利用していない」(55.7%)が5割台半ば、「普段からインターネットを利用していない」(13.9%)は1割台半ばとなっている。



(4-1) 千葉県ホームページの見やすさ・使いやすさ

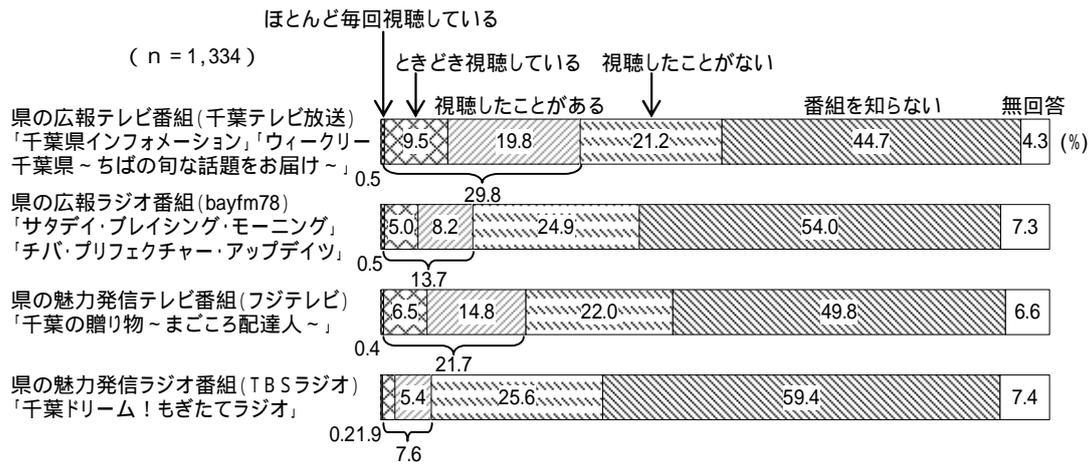
千葉県ホームページを「よく利用している」、「ときどき利用している」、「利用したことがある」と回答した341人を対象に、千葉県ホームページの全体構成の見やすさ・使いやすさについて聞いたところ、「良い」(7.9%)が約1割、「普通」(83.9%)が8割台半ばとなっている。



注) 下段の()書きは、平成29年度の調査結果を示している。

(5) 県の広報・魅力発信番組の視聴状況

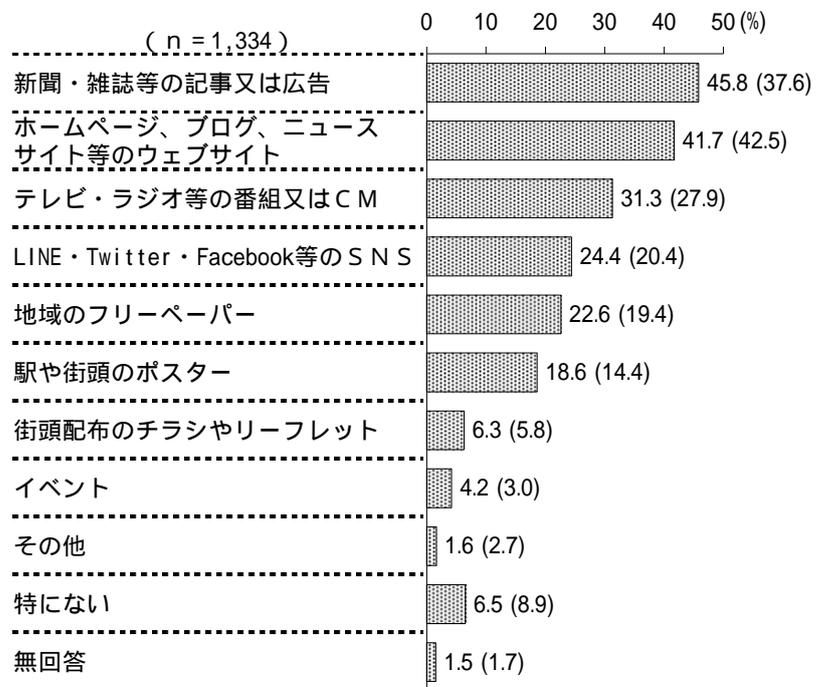
県の4つ広報番組の視聴状況を聞いたところ、「ほとんど毎回視聴している」と「ときどき視聴している」、「視聴したことがある」の3つを合わせた『視聴したことがある(計)』が最も高いのは、県の広報テレビ番組(千葉テレビ放送)『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』(29.8%)が約3割となっており、以下、県の魅力発信テレビ番組(フジテレビ)『千葉の贈り物～まごころ配達人～』(21.7%)が2割を超え、県の広報ラジオ番組(bayfm78)『サタデイ・プレイシング・モーニング』『チバ・プリフェクチャー・アップデート』(13.7%)が1割台半ばで続く。



(6) 情報の入手媒体

(複数回答:いくつでも)

観光や食事、レジャーなどをする上で、どのような媒体を通じて情報収集をしているか聞いたところ、「新聞・雑誌等の記事又は広告」(45.8%)が4割台半ばで最も高く、以下、「ホームページ、ブログ、ニュースサイト等のウェブサイト」(41.7%)、「テレビ・ラジオ等の番組又はCM」(31.3%)、「LINE・Twitter・Facebook等のSNS」(24.4%)、「地域のフリーペーパー」(22.6%)が続く。

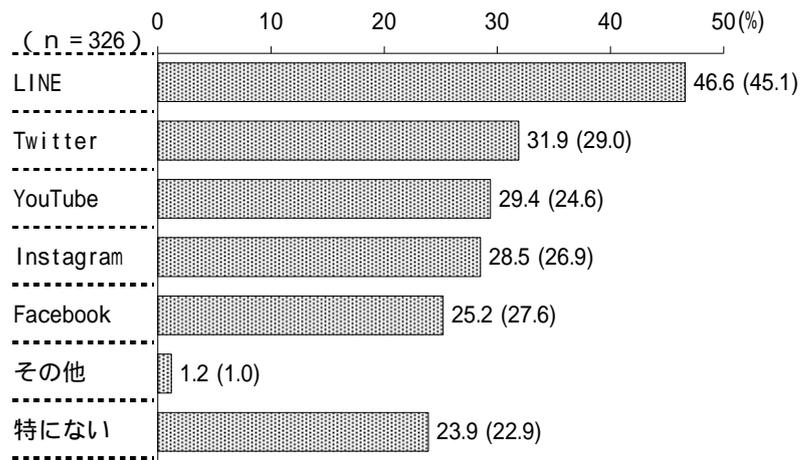


注) () 書きは、平成29年度の調査結果を示している。

(6 - 1) SNSの種類

(複数回答 : いくつでも)

情報の入手媒体で「LINE・Twitter・Facebook等のSNS」と回答した326人を対象に、利用しているSNSの種類を聞いたところ、「LINE」(46.6%)が4割台半ばで最も高く、以下、「Twitter」(31.9%)、「YouTube」(29.4%)、「Instagram」(28.5%)、「Facebook」(25.2%)が続く。

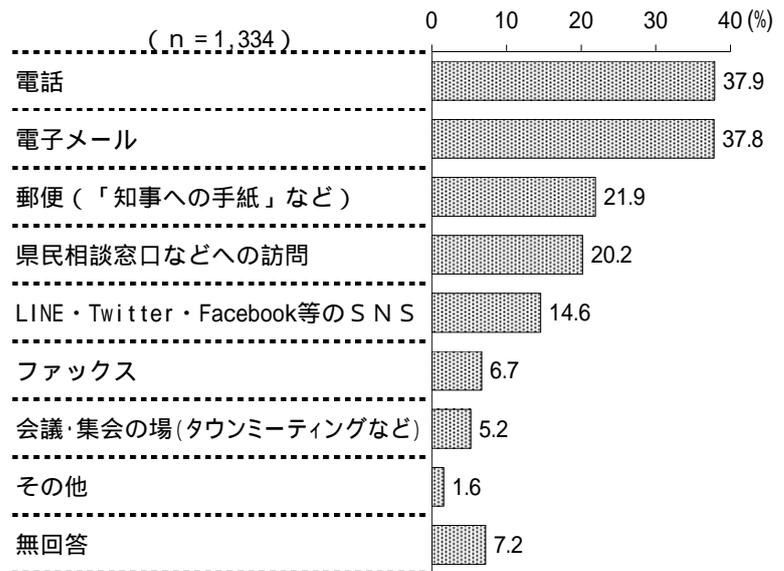


注) () 書きは、平成29年度の調査結果を示している。

(7) 県政への意見を述べる方法

(複数回答 : 3つまで)

県に対して意見(要望や相談、苦情など)を述べる場合、どのような方法で意見を述べたいか3つまで選んでもらったところ、「電話」(37.9%)と「電子メール」(37.8%)が約4割で最も高く、以下、「郵便(『知事への手紙』など)」(21.9%)、「県民相談窓口などへの訪問」(20.2%)、「LINE・Twitter・Facebook等のSNS」(14.6%)、「ファックス」(6.7%)が続く。



【自由回答（抜粋）】

県や世論調査への意見を自由に記述していただいたところ、214人から延べ264件の回答が寄せられた。

記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った形(合計31項目)で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

世論調査について

このような調査をしていることを今回初めて知りました。これがきっかけで県政にもっと興味が持てるようになるかもしれません。
(女性、50代、葛南地域)

県政全般に関する要望

社会的弱者（障害者、貧困層、シングルマザー・ファザー等、高齢者）が住みやすいユニバーサルデザイン豊かな街作りをして頂けると嬉しいです。(男性、20代、千葉地域)

公共交通網（バス・鉄道）を整備する

難しいと思いますが、各市町村に駅を設置してもらいたい。車がないと生活もできない状況であり、高齢者は免許返納などができない。
(男性、40代、長生地域)

災害から県民を守る

避難勧告をしても、毛布、水、食料は持参する必要があるとのこと。緊急時に高齢者を抱えて毛布等を持って避難することは難しい。事前に避難場所に水や毛布、食料を準備できないものか。
(男性、60～64歳、君津地域)

道路を整備する

千葉県は、近隣県に比べて道路整備が進んでいない。渋滞も慢性化しており、道路の拡張や立体交差、踏切の削減など積極的な施策を期待する。
(男性、60～64歳、葛南地域)

次世代を担う子どもの育成支援を充実する

経済的なことを考えずに子どもを産むことができる環境を作ってもらいたいです。
(男性、20代、東葛飾地域)

学校教育を充実する

近隣の小中学校のエアコン設置は、再来年の秋頃になるという事ですが、今すぐにでも取り掛かって頂きたいです。昔と今とでは子供の環境が違う事は、真夏の授業を見学して頂ければ分かる事と存じます。子供の学力向上、そして命に関わる問題ですので、未来を担う子供達の為に、どうぞご検討をお願い致します。
(男性、40代、印旛地域)

高齢者の福祉を充実する

単身高齢者が安心して暮らせる施設がほしい。
(男性、65歳以上、夷隅地域)

医療サービス体制を整備する

認知症の高齢者が多くなってきており、認知症専門病院が必要と思われる。
(男性、65歳以上、千葉地域)

県政の情報発信について

「ちば県民だより」も市政だよりのようにポストに投函いただけると嬉しいです。
(女性、50代、千葉地域)